

大学における平和教育の課題と 広島・長崎

明治学院大学国際学部の経験

2013年11月30日

高原孝生

大学における平和教育

- * 受験生 「大学は何をするところですか？」
在校生 「考えるところです。」

「受験生」から「大学生」になる
生徒から学生になる

明治学院大学国際学部の平和教育

- * 「平和研究」明治学院大学国際学部では「地域研究」と共に、学部の柱。

「平和」を掲げた授業：

1000番台「平和研究の基礎」 2単位

2000番台「平和学」 4単位

3000番台「平和・紛争研究」 4単位

- * ゼミ・校外実習・フィールドトリップ
- * 広島・長崎講座
- * 「明治学院」講座

明治学院大学国際学部の平和教育

- * 文化
- * 経済
- * 法・政治

- * 地域研究
- * 平和研究

教材「何日生きられたか」

- * 考える、ということについて、考えてみる
なぜ平和を学ぼうとする人は少数派なのか？
そもそも、社会について学ぼうとする人は少数派。

- * 社会への認識関心が生じるには、3つの条件が必要
 1. その社会に問題(争い・コンフリクト)があること
←争いのない社会はありうるか？
資源の限界
人間能力の限界

「何日生きられたか」

* 社会への認識関心が持続するためには…。

条件 2. 問題を問題として認識すること

村人たち、シタエフ君の親戚たち

条件 3. 問題の解決を欲し続けること

シタエフ君のお父さん

あきらめ、無関心

「啓蒙とは何か」

- * 人間が自分の未成年状態から抜け出すこと
- * 多く人は自らのせいで、未成年状態にとどまっている

自らの怠惰と怯懦を乗り越える。
「自由」が必要。

あきらめ・無関心

- * 伝統的あきらめと異なる、現代的あきらめ。
無知、と異なる。
- * 背景：無力感、人間観。
- * 防衛反応でもある。
- * ←「希望」。

協同の体験

- * 校外実習
- * UC広島トリップ
- * サークル活動
 - e.g. ピース☆リング (毎夏、広島・長崎へ)

広島・長崎

- * 今、問われているアクチュアルな問題。
被爆・被曝：ビキニ事件、福島原発事故
- * 国際的に発信が求められている。
対 核保有国、原爆を投下した国
かつて日本軍が侵攻した国々
- * 戦争の惨禍に向き合うこと。
戦後日本の精神的営みをきちんと受け継ぐこと。
その中に、被爆体験、広島・長崎の思想継承もある。